

リンゴ生産の省農薬化のための虫害果の非破壊選果技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所 豊島 真吾

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

減農薬を推進しているリンゴ栽培では、モモシンクイガに対する補完防除剤の削減が求められている。このため、「殺虫剤を散布してリンゴ園のモモシンクイガ被害を低減させる」という発想から、「発生した被害果を光センサー選果機で効率的に除去する」という発想へ転換し、市場へ流通する前に被害果を除去する光センサー選果技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 果実内部に潜む害虫を非破壊的に高精度で検出する技術の開発

((独) 果樹研究所、(株) 果実非破壊品質研究所)

非破壊センシング技術を用いて、モモシンクイガ被害果を高精度に識別できる非破壊選果技術の開発を行う。

② 虫害果の非破壊選果を前提とした省農薬防除体系の構築 ((独) 果樹研究所、福島県果樹試験場)

リンゴ主要品種を用いて、モモシンクイガによる被害形態を明らかにし、被害の予測技術を開発する。

5 目標とする成果

本研究の目標とする「モモシンクイガに対する補完防除剤の削減」のために、被害果の非破壊選果技術と被害予測技術が開発され、非破壊選果を前提とした省農薬防除体系が構築される。これにより、同様の被害形態を呈するリンゴの芯腐れの検出、農薬に依存しない防除技術の推進によるさらなる省農薬化が期待される。